

# 2024 年「高知資料ネット」の活動

メール:h-obata@kochi-u.ac.jp

住所：高知市曙町 2-15

高知大学小幡尚研究室

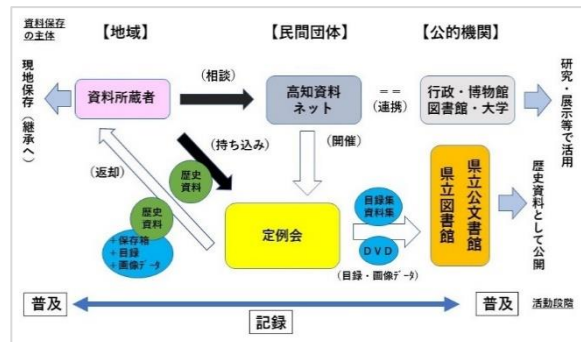


↑ Facebook

## ▼高知地域資料保存ネットワークとは

### 市民発の資料ネット

高知県内の戦争資料の散逸を危惧した市民の呼び掛けで 2016 年に高知戦争資料保存ネットワークとして発足。県民の関心の高い戦争資料から始め、文化行政のケアが行き届かない民間所在資料の記録と公的機関への保存の働きかけを目的に活動を開始した。2021 年に「高知地域資料保存ネットワーク」に改称。所蔵者と共に資料整理を行う「高知資料ネットモデル」で資料の現地保存を支援し、9 年間で 90 件約 4 千点の資料を記録している。



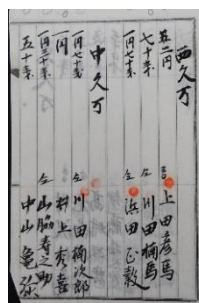
## ▼2024 年の活動

2024 年は、毎月 1 回計 12 回の定例会で、10 件約 500 点の資料の記録・保存支援を行った。また、トヨタ財団・統計情報開発センターの研究助成を活用し、2024 年 3 月には 2023 年に行ったシンポジウムの記録集『歴史資料保存と土佐清水』を刊行。地理情報システム (GIS) を使った記録資料の所在把握や災害リスク分析 (トリアージ) も進めている。以下主要な活動について紹介する。



### 近現代資料 10 件を整理

明治～昭和期の資料を中心に、県内から記録保存の相談を受け、10 件を撮影・保存処理、所蔵者に返却した。特に、谷直利資料は 200 点近い満蒙開拓青少年義勇軍関係の一次史料で、内蒙古地区の開拓団の実態を知る貴重な史料であった。また、土佐特有の楠神信仰が近世以降、高知城下で広がっていたことを示す葉神社資料も整理した。また、日中戦争期の 113 点の出征旗 (川添渉資料) の自由民権記念館での展示も実現した。



(左) 葉神社資料 (右) 川添渉資料の展示



シンポジウム記録集

活動グループ	活動内容	活動期間					活動内容
		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	
記録1. テーマの設定	△	○	○	○	○	○	戦争資料と市民・市民と研究家の協働
記録2. 情報収集	△	○	○	○	○	○	戦争資料、文書収集
記録3. 調査計画の立案	△	○	○	○	○	○	調査方法の検討
記録4. テーマの記録	△	○	○	○	○	○	史料撮影、撮影記録、番号整理
記録5. テーマの整理	△	○	○	○	○	○	史料整理・分類、テーマ整理、資料目録
記録6. データの分析	△	○	○	○	○	○	史料整理、史料分析、史料活用計画
普及1. 結果の公表	△	○	○	○	○	○	調査報告書、テーマの公開
普及2. 広報・啓発	△	○	○	○	○	○	SNS、資料展示、シンポジウム、記録集
普及3. 他機関との連携	△	○	○	○	○	○	博物館、図書館、防災センターとの連携
普及4. 文化資源の継承	△	○	○	○	○	○	博物館、地域での継承

上岡家文書モデルの実践プロセス

### 記録集刊行・市民参加の古文書整理モデル提示 → FB ページで PDF 公開

昨年土佐清水市で行ったシンポジウムの記録集『歴史資料保存と土佐清水』を刊行。その中で、2018 年から約 5 年間にわたって高知資料ネットが整理した上岡家文書 (浦庄屋の家に伝わった近世文書 90 点) の保存活用の実践から、市民参加で古文書を整理していく方法論を示した活動モデル「上岡家文書モデル」を提示した。

### GIS を使った整理資料の災害リスク分析

以前から進めてきた整理資料の現地保存支援や災害時の文化財レスキューを想定した、GIS による災害リスク分析を進めた。整理後に返却した約 30 点の資料について、所在地の位置情報と南海トラフ地震の浸水予測マップを重ね合わせ、周辺の浸水状況とも併せて被災リスクを A・B・C・D の 4 ランクに分類した。浸水域には入らない場所でも浸水域に囲まれて、資料搬出が難しい家屋があるなど現状が把握でき、被災時の状況を想定した文化財レスキューの優先度や計画作りを進める必要があることを再認識した。

※データベースや分析図は個人情報保護のため一般公開せず、資料番号を隠すなど処理をしている。



(左) 高知資料ネットの整理資料データベース

(右) GIS を使った整理資料の被災リスク分析 (高知市中心部)